

こだま

第178号
2012.7

ISSN 0915-8782

CONTENTS

金沢大学所蔵貴重資料リポジトリ	1
図書館システムの新サービス	2
①「統合検索」登場	
②「金大LINK」の機能強化	
海外図書館訪問記	4
環境学コレクション	5
明後日朝顔プロジェクト金沢	5
金大生のための読書案内	6
KULiC-α活動報告／とぼらニュース	7
図書館トピックス	8

金沢大学附属図書館報“こだま”

<http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp>



附属図書館では資料館と協同で、貴重資料の画像データ406点をインターネットで閲覧できるサービス『金沢大学所蔵貴重資料リポジトリ』を5月25日に公開しました。

金沢大学では、前身校から引き継いだものも含めて、学術的に貴重な資料を収集・保存してきました。こうした貴重資料については、研究・教育・保存を主目的としていたこともあって、これまでご覧いただく機会を積極的に提供してきませんでした。



儀式風俗図繪「寺小屋」



加賀藩年中行事図繪「七夕」



四高教育掛図「白亜系化石」



四高物理実験機器「地球儀」

貴重資料リポジトリには、これらの中から『加賀藩年中行事図繪』全4帖、『儀式風俗図繪』全2帖、『第四高等学校教育掛図』110点などの附属図書館所蔵の貴重書や、資料館所蔵の『第四高等学校物理実験機器』などの博物資料の画像や資料のデータを収録しています。文献資料の画像は細部まで確認できるようになっています。

このリポジトリの公開で、大学までわざわざ足を運ばなくてもいつでも画像データを閲覧できるようになり、また、インターネットの検索エンジンで検索できることから、資料の存在を知ってもらうことができるようになりました。

附属図書館と資料館では、今後も所蔵している資料を順次電子化し、公開していく予定です。

『金沢大学所蔵貴重資料リポジトリ』は、以下のURLからアクセスできます。どうぞご覧ください。

<http://muse-lib-collection.lib.kanazawa-u.ac.jp/>

(情報サービス課専門職員 守本 瞬)

金沢大学所蔵貴重資料リポジトリ

を公開しました

図書館システムの新サービス①

図書館OPACがさらに進化。「統合検索」が登場します！

附属図書館のOPACをご利用でしょうか？

3月の図書館システム更新に伴いインターフェイスが変更されたOPAC。表紙画像が表示されたり、背ラベルを分かりやすく表示するなど、以前より使いやすくなりました。

さらにこの夏、より資料を探しやすくする『金沢大学附属図書館 統合検索』が登場します。今号では、この「統合検索」について 为您介绍します。

1. 「統合検索」では、検索対象となる資料が拡大していきます！

従来のOPACは、“図書”、“雑誌”、“視聴覚資料”の検索ができました。しかし、金沢大学で利用できる資料はかたちのある資料だけではありません。電子ジャーナルや金沢大学学術情報リポジトリKURAの資料など、インターネットで提供している電子的資料も一括して検索できれば便利ではありませんか？

「統合検索」では、“KURAに登録された論文”などの電子資料も同時に検索できるようになります。ここで検索したKURAの研究成果は、そのままウェブ上で読むことができます。

現在も、“金沢大学で購読している電子ジャーナルのタイトル”、“金沢大学貴重資料リポジトリに登録された画像”についても一括して検索できるよう、開発を行なっています。

2. 検索結果の絞り込みが容易になります。

検索結果の数が多いと絞り込むのに一苦労です。「統合検索」では、検索結果一覧の左側に、絞り込み候補が表示されますので、クリック一つで絞り込んでいくことができます。より簡単に求める資料にたどり着くことができるようになります。

(情報サービス課専門職員 守本 瞬)

金沢大学附属図書館 統合検索

The screenshot shows the library's integrated search interface. It includes a search bar, a list of search results with filters, and a detailed view of a search result. Callouts highlight key features:

- 検索画面 (Search Screen):** Shows the search bar and navigation options.
- 絞り込み候補 (Filter Candidates):** A callout points to the left sidebar of the search results page, stating: "この部分に絞り込み候補が表示されますので、ワンクリックで絞り込むことができます。" (Candidates for narrowing down are displayed in this part, so you can narrow down with one click.)
- 検索結果の並び替え (Result Reordering):** A callout points to the top right of the search results page, stating: "検索結果の並び替えはここから。" (Reordering search results is done from here.)
- 同時検索 (Simultaneous Search):** A callout points to the search results page, stating: "図書・雑誌と論文を同時に検索できます。" (You can search for books, magazines, and papers simultaneously.)



詳細画面は、これまでのOPACとほとんど変更がありません。
この画面から、所蔵場所や請求記号を確認したり、予約したりできます。

図書館システムの新サービス②

「金大LINK」からのILL文献複写依頼が便利になりました

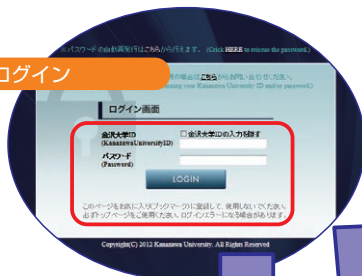
「金大LINK」は、金沢大学で契約している主要なデータベースで論文を検索しているときに、表示されるリンク用アイコンです。このアイコンをクリックすると、目的の論文を入手するための様々な手段が表示されます。4月以降、この「金大LINK」を通じて、データベースから文献複写の依頼画面への書誌データの取り込みが可能になり、文献複写依頼が非常に便利になりました。以下では、「金大LINK」からの依頼方法をご紹介します。

<依頼の流れ>

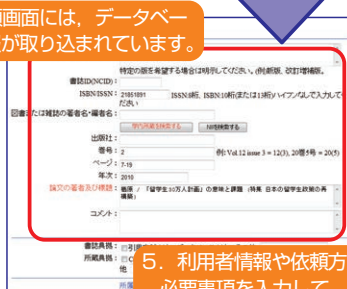
1. データベースで論文を検索し、「金大LINK」のボタンをクリック



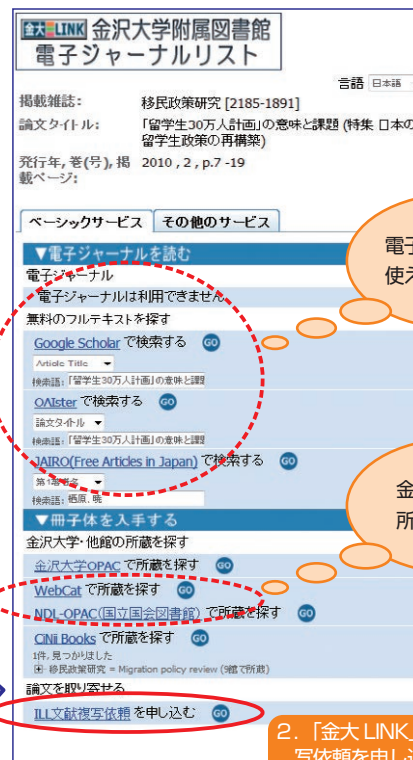
3. 金沢大学IDでログイン



4. 開いた依頼画面には、データベースの書誌情報が取り込まれています。



5. 利用者情報や依頼方法等を確認・必要事項を入力して、依頼を実行!



電子ジャーナルが使えない…

金沢大学には所蔵がない…

2. 「金大LINK」画面の「ILL文献複写依頼を申し込む」をクリック

※「金大LINK」の詳細については、こだま177号p.11『金大LINKの使い方』を参照してください。

(情報サービス課自然科学系図書館係 館 正裕樹)

香港、シンガポール、オーストラリアの大学図書館訪問記

3大学連携でラーニング・コモンズと学習支援を調査

平成24年3月、金沢大学、静岡大学、名古屋大学の3大学図書館の連携事業の一環で、香港、シンガポール、オーストラリアの大学図書館におけるラーニング・コモンズの整備状況と学習支援の現状についての調査を行いました。

訪問したのは、香港科技大、香港大、香港城市大（以上香港）、南洋理工大、シンガポール国立大（以上シンガポール）、モナシユ大、ディーキン大、ビクトリア大、マツコーリー大、シドニー工科大、シドニー大（以上オーストラリア）の11大学で、本学からは、橋（香港・シンガポール）と池上（オーストラリア）が参加しました。その概要を報告します。なお、香港・シンガポールの調査には、山田政寛大学教育開発・支援センター准教授が同行しました。

香港・シンガポール編

今回訪問した香港とシンガポールの大学は、本学が目指す「東アジアの知の拠点」と言っても良い大学ばかりでした（訪問した5大学は、QSアジア大学ランキング2012の1,2,3,12,17位。金大は77位）。

大学制度の変革期にある香港の大学では、どの館でも大規模なラーニング・コモンズを整備中でした。シンガポールの大学では、館内のPC数に圧倒されました。どちらも資源の少ない、面積の小さい国・地域ということで、高等教育の充実における大学全体としての熱意を感じました。



香港城市大学

当然、どの館でも学習支援を重視していました。各学問分野に対応した文献利用についての講習会を頻繁に開催し、Webでも対面でもサポートを行っていました。それらをコーディネートするのがサブジェクト・ライブラリアンです。主題知識が豊富で学部と連携した教育を担当する図書館員。この存在が大学図書館における学習支援充実のポイントと感じました。

どの大学もグローバル化に対応しており、キャンパスでは英語中心のコミュニケーションが自然に行われていました。これは、近未来の日本の大学の目指す姿だったのかもしれませんが。



南洋理工大図書館

（情報企画課専門職員 橋 洋平）

オーストラリア編

オーストラリアの図書館では、サブジェクト・ライブラリアンなどと呼ばれる専門の図書館職員が中心となり、図書館運営・サービスの提供が行われています。サブジェクト・ライブラリアンは各分野の

専門知識を有しているため、教員からの信頼も厚く、学部と密接に連携した学習支援が行われています。

ラーニング・コモンズについては、特別な場所を設けるという日本の大学図書館の傾向に対し、オーストラリアでは図書館全体がラーニング・コモンズを意識した空間となっています。館内には様々なタイプの部屋、机や椅子（ビーズクッションも）が配置され、そこでは、学生が自らの学習スタイルに合った環境を柔軟に選択できるようになっています。また、ラーニング・サポートの窓口なども設置されており、図書館は、単なる学習の場ではなく、人や様々な情報が集まる“ハブ（HUB）”としての機能を持つことが目指されています。



マツコーリー大学

また、スチューデント・ローバー（Student Rover）と呼ばれる学生が、図書館業務のサポートをしている大学もあります。彼らはボランティアではなく雇用されており、利用案内や資料の検索補助、ITサポート等を行っています。

オーストラリアの大学では、図書館は学習に必須の場所として存在していました。今後、金沢大学附属図書館が大学内で欠かせない場所となるために、訪問で得た先進的な取り組みを参考に、図書館を成長させていかなければならないと実感しました。



シドニー大図書館

（情報サービス課医学系分館係 池上 佳芳里）

*調査報告書は近日中にインターネットで公開します。

この連携事業は、「学習支援促進のための三大学連携事業に関する協定」に発展し、6月21日に協定の締結を行いました。

環境学コレクション 自然科学系図書館／中央図書館

●自然科学系図書館●日産提供の電気自動車用バッテリーを展示中！

5月29日、自然科学系図書館2階環境学コレクションコーナーで、日産自動車株式会社提供の電気自動車用バッテリーの展示の除幕式が行われました。式典では、櫻井勝理事（評価・情報・社会貢献担当）から挨拶があった後、有松正洋事務局長、柴田正良附属図書館長、久保治輔副図書館長を加え除幕が行われました。



続いて、柴田館長より、冷却装置が不要で、寿命が長く、薄くて軽いコンパクトなラミネート構造を持つリチウムイオン・バッテリーの特徴についての説明があり、約30名の出席者は、最新技術の詰まったバッテリーに見入っていました。9月29日まで、自然科学系図書館2階環境学コレクションコーナーで展示中です。ぜひご覧ください。

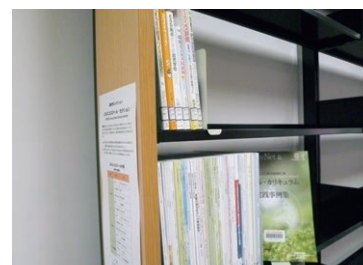


●中央図書館●3階に「環境学コレクション ユネスコスクール・セクション」がオープン！

7月6日、中央図書館3階に新しく「環境学コレクション ユネスコスクール・セクション」が設置されました。このセクションは、環境学コレクションの一環として、平和や国際的な連携を実践するユネスコスクール*やESD**に関する報告書や事例集、図書などを収集するものです。一部を除き貸出も可能です。ぜひ授業や研究、地域交流などにご活用ください。

* 2012年7月現在、北陸で55校が加盟

**Education for Sustainable Development 持続可能な社会づくりの担い手を育む教育
(情報企画課図書情報係 瀧口 玲子)



ユネスコスクールやESDについての詳細

<http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp/env/unescocollection.html>



「第4回明後日朝顔プロジェクト金沢in金沢大学中央図書館」 苗植え式 (6/14)

金沢大学附属図書館では、今年も明後日朝顔プロジェクトに参加することになりました。本プロジェクトへの参加は今年で4年目となります。



6月14日に行われた苗植え式には、学生や教職員51名が参加し、炎天下の中、6cm程に育った苗を一苗ずつ丁寧に植え、また、参加者それぞれの思いを込めたメッセージプレートを設置しました。

これから夏本番に向けて、たくさんの葉と花をつけ、また、ツルを中央図書館の壁いっぱいには伸ばし、元気に育っていつてくれるでしょう。

これからも朝顔の育成を通じて、人と人、人と地域、地域と地域、そして金沢大学の学生・教職員のコミュニケーションが深まることを願っています。

(情報企画課総務係 大板 聡子)

明後日朝顔の基本理念

- 種は、まだ見ぬ先へ想いを馳せている。
- 種は、時を越える事の出来る乗り物である。
- 種は、見知らぬ土地に行く事が出来る船である。
- 一粒の種の中には今までの無数の記憶が蓄積されている。
- 一粒の種の中には次に伝えるたくさんの思い出が詰まっている。
- 記憶と思い出が今日を過ごして花を咲かせると、明日の種が生まれてくる。
- 種の船に乗れば明日の明日へと繋がっていく。
- そして…明後日の姿へと想いは広がる。



昨年の様子。
秋にはたくさんの思い出が詰まった種を収穫予定です。

明後日朝顔プロジェクト詳細

<http://www.asatte.jp/asatteasagaoproject/>



榊原 千秋 先生
(医薬保健研究域 保健学系)

「死を包む言葉」

平成24年7月2日～ 中央図書館で展示中

第11回



教員から教員へ、リレー形式で続いている教員おすすめ図書コーナーは、今回で第11回を迎えました。今回バトンを受け取ってくださったのは医薬保健学域保健学系の榊原千秋先生です。

21歳で母親を亡くしてから、自分でも無意識のうちに死に近い人々のそばに居ることを選択してきたように思います。33歳で交通事故に遭い瀕死の状況の中、臨死体験をしました。右手の中指からすーっと一筋の煙のように魂が抜けていき、救急車の中で横たわる自分を見下ろしていました。付き添いの医師が手を握りしめてくれなかったらきっと今の自分は存在しません。その後、幾度も病を繰り返し、何度も死を意識する体験を繰り返しました。その度に、この世の中にもう自分という存在は必要とされていない、おおいなるものからあなたはもういいわと言われているように感じました。このことは、心や身体の深いところに刻まれ、いつ死んでもいいという死への肯定が強くなるなど、その後の人生に大きな影響を与えました。このような体験から、1人称の死のリハーサルの体験後の方々を対象にしたグリーンワークが必要と感じています。

母親は脳腫瘍でがんとわかった時には、全身に転移していました。たった1年の闘病でした。折しも保健師として町役場に就職した年でした。放射線治療、抗がん剤、モルヒネの副作用…。最期の時のことです。医師は母親の上に馬乗りとなり心臓マッサージをはじめました。そして看護職の娘にアンビューバックを渡したのです。20代後半の女性医師は、もういい？と目で語りました。実は、この情景は記憶の深いところに長い間閉じ込められていました。20年後、40歳を迎えた秋のことでした。作家の柳田邦男さんから筋萎縮性側索硬化症（ALS）という難病患者さんとのかわりについて話を聞きたいとお電話がありました。その電話口で、母親の最期の呼吸を止めたのが娘である自分であったことを語っている自分に気がつきました。

21歳のあの日から、わたしの本棚には死や病いの語句が並びます。「死を包む言葉」との出会いが心の支えでした。本を読み、人と出会い、語り合ってきた30年は、わたしにとって、「死を抱きしめてきた日々」だったように思います。40歳を迎えた春に大学院生となり、縁あって金沢大学の看護学教員となりました。自分や愛する人が病気になったとき、病いの経験が書かれた本を読むことは、大きな力になるのではないかと、また学生たちにとっても患者さんや家族を理解する際の大きな学びになるものと、柳

田邦男さんが推奨されている闘病記ライブラリーコーナーを保健学類の図書館につくっていただきました。また、病や障害を経験された方々に語り手になっていただき学生たちにお話を聞かせていただくことは、聞き手の学生たちだけでなく語り手にもいい体験になるという確信から、患者さんと家族の声を学生たちといっしょに聞き書きサークル「星ことば」を立ち上げ、聞き書き講座を定期的に開催しています。学生たちは、やわらかな発想で、患者さんも家族も医療保健福祉従事者も誰もがひとりの人として出会い語り合える場をつくりたいと、「ココチカフェ」という居場所づくりを行っています。人に寄り添えた手応えを感じる貴重な機会です。学生たちのはればれとした笑顔を見るたびに死を抱きしめてきた日々も無駄ではなかったなと思えます。



闘病記ライブラリーコーナー（保健学類図書室）

書名 著者、出版事項
1 死の中の笑み 徳永進著、ゆみる出版、1982.2
2 犠牲(サクリファイス):わが息子・脳死の11日 柳田邦男著、文藝春秋、1995.7
3 火花 高山文彦、角川書店、2003.6
4 サイレント・ガーデン:滞院報告・キャロティンの祭典 武満徹著、新潮社、1999.10
5 人間の絆(上・中・下) モーム作、行方昭夫訳、岩波書店、2001.10-2001.12
6 家郷の訓 宮本常一著、岩波書店、1984.7
7 苦海浄土:わが水俣病 石牟礼道子著、講談社、1972.12
8 街角の精神医療:最終章 浜田晋著、医学書院、2006.12
9 寛容・多田富雄詩集 多田富雄著、藤原書店、2011.4
10 「出会う」ということ 竹内敏晴著、藤原書店、2009.10
11 魂にメスはいらぬ 河合隼雄、谷川俊太郎著、講談社、1993.9

おすすめ図書紹介文の全文は、展示コーナーの他に、図書館Webサイトの次のページでもご覧いただけます。
<http://www.lib.kanazawa-u.ac.jp/portal/osusume/1206sakakibara.html>

KULiC-α 活動報告

2012年4月～6月

オープンスタジオでの活動

ワークショップ、セミナー等の開催

- 6月13日 第16回学生・学習支援研究会
「Twitter / Facebookのいろいろな使い方」
- 6月27日 第17回学生・学習支援研究会
「レポート・ライティング・ワークショップ」
講師：山田政寛准教授（大学教育開発・支援センター）
【13・27日の両日】

ブックラウンジでの活動

ブックラウンジでのイベント（図書館主催・共催イベント）

- 5月16日 「EUカフェ2012 続くユーロカフェ：EUの現実と理想」
その他、留学生との交流イベントや発表会が行われました。

ギャラリーαでの展示

- 3月26日～4月20日 「写真展：Beauty in Science, Technology and Engineering」
（金沢大学男女共同参画キャリアデザインラボラトリー）
- 4月23日～5月11日 「ベトナム・カンボジアスタディツアー活動紹介」（石川県ユネスコ協会）
- 5月9日～5月23日 「EU資料展2012：EUとユーロ」
- 5月28日～5月30日 「9モンキー1ゴリラ」
（金沢大学・金沢美術工芸大学美術サークル・ライオンサークル）
- 5月31日～6月8日 「金沢大学創基150年スライド上映」
- 6月8日～6月30日 「学都金沢（読売新聞掲載記事パネル）」
- 6月21日～7月13日 「JICA北陸パネル展：もし、世界が100人の村だったら」
（国際協力機構北陸支部）

図書館学生ボランティア とぼらニュース

「とぼら」は金沢大学図書館学生ボランティアの愛称です。中央図書館で、おすすめ図書の展示や「ほんとか文庫」の運営など、図書館をもっと楽しめる場所にするためにいろいろなイベントの企画・運営を行っています。メンバーを随時募集中です。一度ミーティングに参加しませんか？（ミーティングは毎週火曜日のお昼休みに中央図書館3階オープンスタジオで開催しています。）

とぼらのメンバーから一言！

僕は時間ができるとよく図書館に足を運びます。理由は本を読むためであったり、勉強のためであったり、ただぶらぶらと本を眺めていたいからであったりと様々です。そしてよく立ち寄るのが、雑誌コーナーです。「Newsweek」「日経パソコン」「AERA」「AERA English」などたくさんの雑誌があり、時間を忘れて読みふけてしまうこともしばしばあります。「Newsweek」の記事からは普段なかなか知ることのできない各国の情勢や、今世界がどう動いているのかという情報をよく得ています。また、入学当初Windows 7に慣れていなかった僕には「日経パソコン」がとても役に立ちました。今、パソコンが快適に使えているのもそのおかげです。

図書館のサービスもいろいろあります。僕が驚いたものの1つに、大学内からならばネット経由で日経の雑誌のバックナンバーを読んだりダウンロードできるというものです。去年、説明会の際にきき、早速試してみました。記事を検索することもできるので、自分が必要としているものを探せて便利だと思いました。

また、映画や映像資料も多数あり、いつか見てみたいと思うものも多々あります。とぼらシアターでそのような映像作品を見ることができたのも、とてもいい思い出になっています。

入学してから1年ほど経ちますが使ったことのない図書館のサービスもいっぱいあります。いつかオープンスタジオで友達とミーティングをしたいなと思っています。これからもうまく図書館とつきあっていきたいです。

（機械工学類 2年 太田 智）

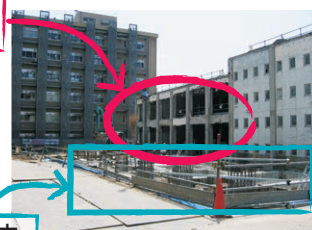
シリーズ 医学系分館増改築工事

平成25年春のリニューアルオープンに向けて医学系分館の増改築工事が着々と進んでいます。工事の進捗状況は、医学系分館ブログ（<http://kulmed.blogspot.jp/>）でもお知らせします。



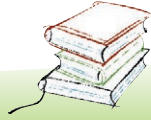
2011.10.24 撮影

閲覧室があった建物
外壁が取り壊され、
骨組みだけの状態に。



増築部分は基礎工事中。

2012.6.13 撮影



図書館



EU資料展&EUカフェ(中央図書館)

金沢大学附属図書館は北陸で唯一のEU情報センターです。

5月9日のヨーロッパ・デーにあわせて開催される日・EUフレンドシップウィーク・イベントとして以下の催しを行いました。

●資料展示「EUとユーロ」(5月9日～5月21日)

今年は、今まさに話題となっている「ユーロ」に着眼し、ユーロ(コイン・紙幣)の展示や、ユーロに関するパネル展示を行いました。また、めくり型のユーロクイズも展示し、回答者にはEUグッズを配布するなど、利用者参加型の企画を試みました。



●EUカフェ2012

「続くユーロ危機：EUの現実と理想」(5月16日)

上條勇教授、佐藤秀樹准教授(ともに人間社会学域経済学経営学系)による概説や最近の状況について解説の後、外部講師の高山光男氏(北陸銀行国際業務部)も交えて3名の講師によるディスカッションが行われました。

気軽に参加してもらおうと、昼休みに開催したところ、45分間の短い時間ながら一般市民も含め約80名の参加があり、立ち見が出るほどの盛況ぶりでした。

大学社会生活論、情報処理基礎

学部新入生を対象とした科目「大学社会生活論」で1コマ、「情報処理基礎」で1～2コマ、図書館職員による授業を行いました。

「大学社会生活論」では図書館の基本的な利用方法をビデオをみながら説明しました。学類の先生から利用者の立場にたった図書館の利用方法についてお話を聞いたクラスもありました。(4月11日～5月31日)

「情報処理基礎」では資料の探し方や基本的なデータベースの検索方法について実習も含めて学んでもらいました。(5月13日～5月31日)



各館で文献検索講習会を開催

新入生を対象に行っている「情報処理基礎」の復習もかねて、ゼミ単位、学類単位、授業単位など、ご希望に応じた内容で随時講習会を行っています。

4月から6月にかけては、中央図書館で8回、自然科学系図書館で1回、医学系分館で1回、保健学類図書室で2回、規模の大きなものから小さなものまで、多数開催しました。

分野に応じた適切なデータベースの利用方法や最新の情報などをお知らせします。実習もありますので身につくと思います。気軽にお申し込みください。

SciFinder(化学系データベース)について 契約変更(アクセス制限解除)と講習会

4月から、SciFinderの同時アクセス数を「2」から「無制限」に契約変更しました。予約が不要となり、時間制限もなくなりました。

6月6日には自然科学系図書館で講習会も開催しました。

思い立ったらすぐ「SciFinder」。ご活用ください。

ジャパンナレッジ・プラスについて

7月から「日本国語大辞典ジャパンナレッジ・プラス」で「国史大辞典」「日本歴史地名大系」が利用可能になりました。「日本国語大辞典」や「日本百科全書」、各種の事典などと同時に利用できますので、ぜひご利用ください。

ランチョンセミナー

4月27日、総合教育棟で毎日開催されているランチョンセミナーで、「ブックラウンジへ行こう!」と題して図書館入り口のカフェスペースを紹介しました。

資料展示

●学生サークル代表者による『私の薦める一冊～新入生の皆さんへ～』(4月3日～4月28日)【中央図書館】

●祝・創基150年『金沢大学創基150年史』(6月8日～6月21日)【全館】

編集後記

つい先日、新入生を迎えたと思ったら、暑い時期を迎えています。今号では4月以降に新しく提供したサービスを中心に図書館で起こったことを紹介しました。図書館ではいつも新しいサービス、より良いサービスの提供を心がけています。この「こだま」が「図書館を使ってみようかな」というきっかけになれば幸いです。

広報委員会メンバー

村田勝俊 守本 瞬 池上佳芳里 舘正裕樹
瀧口玲子 藤原恵理子 大板聡子 押見智美

金沢大学附属図書館報「こだま」第178号

平成24年7月31日発行 発行：金沢大学附属図書館

編集：広報委員会 印刷：株式会社 橋本確文堂

〒920-1192 金沢市角間町 TEL：076-264-5200

E-mail：etsuran@adm.kanazawa-u.ac.jp